

【参考資料】

令和 6 年度第 2 回専門部会
グループワーク結果

令和6年7月31日総合計画審議会専門部会A-3

参加者：蘆田委員 阿部委員 飯島委員 梅津委員 西村委員

欠席：嶋野委員 平谷委員

ファシリテーター：立川さん 板書：大石

①公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展

『質問』

委員

オンライン診療に対して、専門家、サブの人材は必要ですか？デジタルに関する必要が必要ではないか？

岡山病院師長

いまいる先生から、総合診療科の先生が担当者になる。業務としては増えるので外来診療日を減らすなどが考えられる。

委員

住民意識調査で新設の科の希望が出ていると思うが？

石田病院事務長

皮膚科、泌尿器科などがある。どんな先生でもいいのかということを考えると難しい。ニーズと人材が必要

委員

皮膚科ならアトピーやアレルギー皮膚炎 潜在的需要を調査して取り組むことはありますか

岡山病院師長

帯状疱疹など皮膚科に頼らなくても診察できる。専門を希望される場合は専門医を紹介する。

『評価』

委員

妥当 限りなくBに近い。成果で貢献度が高い。

委員

妥当 理由は同じ。

委員

妥当 病院内でさまざまな取り組みをされて、それが住民に発信され、住民に利用してもらおうという努力が見られる。また、具体的指標を定めて取り組んでいる。

委員

妥当 活動、方針に沿って進めているのがわかりやすい。指標に則って評価している。総合計画と前期と後期で状況が変わっていない。前期後期と同じで一冊でいいのでは？

石田病院事務長

病院は経営強化プランを判断している。

委員

妥当 成果指標 患者数は微増だが病床稼働率は上昇している。
かかりつけ医としても進んでいる。運営自体素晴らしいものになっている。

《今後の取り組みに対する意見》

委員

3つの事務事業が成果を出していることで評価している。
毎年レベルアップをして欲しい。現状で満足しないで進めてもらいたい。
看護師の補佐も必要だが、先生の努力が大きい。先生があつての病院の経営なので先生の欠員が無いように頑張ってもらいたい。

委員

差し迫った課題として、マイナ保険証の拡大を国は進めているが、特に高齢者、デジタルについていけない人に住民の立場にたって対応を考えてほしい。資格書でやっていけるということをPRしてもらいたい。

委員

在宅医療・在宅看護の体制を継続してほしい
また、患者の人権を考慮した対応をしている体制を継続してほしい。

委員

地域包括ケアシステムを進めるために、かかりつけ医を推進している。
それ以外で目指しているところに向けて近づいたと思ったことは？

岡山病院師長

院長が病院を残すということで経営理念をということで、職員の認識がかわった。看護師として一人のプレイヤーと考えていたが、このまちに病院を残すという認識で意識がかわり、集団が変わった。課長職の意識やメンバーの役割を果たそうとなった。
指示待ちから自分で考えるチームへ。自分たちで収支を考えることにつながった。人権についてはこれからも続けていきたい。

委員

そういうことを具体的に発信することを行うと、いいスパイラルにつながっていくと思う。大変なことだとは思うが、私たち住民もなにかできるかなという意識につながっていく。

委員

課題認識を確実にすすめてもらっている。これを進めていけばいい。

何かあれば公立芽室病院に行けばいい。公立があるという安心感がある。若い人は個人病院にいくと思う。そういう人たちも公立芽室病院に引き込んでもらいたい。多くの町民に知つてもらって維持してもらいたい。

②学校教育の推進

《質問》

委員

朝食について 個別で対応するとき、差別や偏見になる場合もあるが、そこの配慮を伺いたい。

坂口教育推進課長

誰が食べて、誰が食べていないというところまでは分からぬ。なぜ食べられていないという家庭環境までは探れていない。ただ、そこを調査する必要はあると考えている。

生活習慣病の検査対象になった場合も配慮して進めている。

委員

A I ドリルに関して 先生方の負担が大きいのではと思うが現状は？

清末教育推進課長補佐

先生の負担は大きいと思う。機器の操作や子供に教えること、家庭にも伝えるなど。また、ルールも委員会が決めることや学校が決めるものいろいろあった。かなりのハイペースの変革であった。その反面で、やりたくてもできなかつたことが実現できた部分がある。机を一人ひとり回らなくてはわからなかつたものが、一瞬でできる。子どもたち同士の共有も一

瞬。プリントを配ることも減った。

委員

デジタルは子どもの能力を伸ばしたのか？

清末教育推進課長補佐

まだ、その答えはない。デジタルとアナログが必要。

委員

評価はその子の何を評価しているか。

清末教育推進課長補佐

基礎基本 思考力・判断力 主体性 が全国的な学校のルールである。

委員

タブレットの破損の場合の保証は？

清末教育推進課長補佐

故意に壊す、ルールにそぐわない使い方をした場合は 弁償してもらう。

委員

不登校の子がどのくらいいるのか？

清末教育推進課長補佐

不登校は30日以上欠席という基準があり、その数値は、R2 40人 R3 49人 R4 57人 R5 46人。

また、起立性調節障害の場合は除外していいとなっている。不登校と同じ対応が求められる場合もある。微増の状況である

《評価》

委員

妥当 成果指標 全て向上している 目標をクリアして大きく前進している。B評価に匹敵するものも。

委員

妥当 いろいろ変わる難しい環境のなか実行されている。

しかし、方針と成果指標 指標の判断の難しさ 指標がリンクしているのか。

地域との関係などの指標があったほうがいいのでは。

委員

妥当 少人数の学級編成が一人ひとりの個性が生かされているかたちになっている。学力の部分で22%の方は心配な部分もある。

委員

妥当 朝食の食べない子について全庁的に取り組んで前進している。

自分の肯定感があがっているということがよかったです。懸念として現場の先生の負担がある。

委員

妥当 少人数制の取組や教育そのものをデジタル化してメリットを生かすことを試行錯誤している。

委員

質問だが、自己肯定感の質問はこの文言のとおりか？

坂口教育推進課長

そのままである。

委員

選択肢は。

坂口教育推進課長

あてはまる、だいたいあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらない、無回答、わからない で そのうちあてはまる だいたいあてはまる の合計値である。

《今後の取り組みに対する意見》

委員

今後もひきつづき個に応じた対応をお願いしたい。施策にある「地域と共にある学校」ということから、広報誌などで地域にPRをする必要があるのではないか。町民にもっとお知らせしたほうがいいと思う。こうした活動により「地域ともにある学校」になっていくと思う。

委員

小6と中3の（全国学力テスト）調査事項のうち課題と思う部分を違う学年に展開してはどうか？負担の無いようにすすめてもらいたい。

コミュニティスクールも地域が身近に感じられるように取り組んでもらいたい。心の豊かさはそのような活動にあると思う。

委員

困難を抱える児童生徒の保護者が安心して過ごせる形を続けてほしい。

地域でのコミュニケーションはコミュニティスクールを通して全世代の考え方や交流をとることで、人格形成やレジリエンスの力につながるような交流の場が増えるといい。

委員

質の高い教育環境はICT環境の充実も必要ではある。

義務教育期間は人格形成には教師の人間力が大事になってくる。

教師が子どもたちと向き合う時間が増えることを望む。

コスパを重視しすぎて定員削減につながることの無いようにしてもらいたい。

委員

GIGAスクールは教育を良くするためにやっているのは理解するが、心の問題がおろそかになるのではないかと思う。ICTに頼るのがいいのかなと疑問がある。メリットだけではない。①デバイスの管理と保守が大変②先生のスキルが必要③プライバシーとセキュリティの強化。

坂口教育推進課長

心の教育という部分で、コミスク 小6年間中3年間で 地域のみなさんのお力を借りながら進めている。

③地域で支え合う社会福祉の実現

『質問』

委員

参加した 参加したい 参加したいが機会がない の違いは。

大石政策調整係長

質問の仕方を今年度以降考える。

上嶋健康福祉課長補佐

気持ちがあるひとがどれだけいるかという質問。

《評価》

委員

妥当 コロナ、町内会の加入率の低下が影響ある。

町内会でも交流事業が縮小傾向にある。行政からの働きかけは何ができるのだろうか。

委員

妥当 みなさん頑張っているが、たすけ愛参加の町内会が減っている。実態としては逆行（悪くなっている）している。参加する人からすると距離の問題がある 何か方策を考える必要あり。

委員

妥当 取り組みの前進は理解。原因も理解。

委員

妥当でない（C） 社会福祉協議会の取組や 取組事項の範囲が非常に広い、成果指標では前進しているという判断。担当している民生児童委員協議会としての見方もできている前進している。

委員

妥当 指標の数値、達成状況から 庁内評価がCなら 妥当といった。課題意識はもつていて、自らの評価は厳しいと思う。住民ももっとといっしょに進められたらいいと思っている。

委員

どうしたらいいかを具体的に考えないといけないのであればと思う。担当課だけでなく地域で考えていかなくてはならない

《今後の取り組みに対する意見》

委員

これまでの慣習にとらわれず、地域の人を繋げる取組を。また横断的な取り組みを、一つの課だけでは扱えるものではない。学校教育、子育て、住民自治の部署など課題をいろいろな人と共有しながらすすめていく。行政は問題を把握しているのが強みで、住民に知ってもらって共有することが必要である。

委員

町長は今住んでいる人が安心して過ごせるまちをつくると言っている。包括支援センターが委託された。外部だけでなく行政の立場で方針をつくっていかないと解決できない。一つの課では解決できない。

委員

社会福祉協議会、ボランティアセンターがますます重要になる。様々な団体の力が必要であり、行政が企画を作ってもらいたい。支援する支援されるのではなくすべての住民が意識を持つこと。地道に進めていく必要がある。

委員

民生児童委員の確保。民生委員が一人でやれる限界がある。それを補うために町内会活動と地域の活性化。つながりが出てくる。町内会に入ってない人が増えているが、入っていない人にやりようがない。町内会を活発にしていかないと充実しない。

アクティブシニアの会議で 町内会高齢者の活動について勉強をした。高齢者も引きこもらないで人と接する活動をすることで、認知症にならない。そんな勉強会を行政の担当と協議して、民生児童委員協議会でも行いたい。

委員

住民ができるものについて、役場は住民の活動をバックアップしてほしい。すべて役場だと、人手不足になり他のことができなくなる。住民が主体的に動くことについて、応援していく体質に役場全体がなってもらいたい。役場内部で風が吹いてほしい。

令和 6 年 7 月 31 日総合計画審議会専門部会 A-4

参加者：大塚委員、佐藤委員、丹野委員

欠席者：廣瀬委員

ファシリテーター：小寺さん　板書：天野

①社会教育の推進

《質問》

委員

目標値の成果の隔たりの理由は。

江崎生涯学習課長

読書感想文の取り扱い自体が減っている。それ以外が増えている。

委員

3. 施策達成状況①の読書感想文以外の参加者の推移について。

江崎生涯学習課長

ジモト大学については、成果指標①に数値に含まれていない。

委員

これまでできなかった事業の再開とは。

江崎生涯学習課長

国際交流（トレーシー）、フレンドリーコンサートなど。コロナや事業の縮小で。

委員

電子図書の拡大・浸透の実績は。

藤澤図書館長

4000 タイトル購入、5700 件の貸し出しがあった。学校にも ID・パスワードを配布。図書館担当の先生に啓発。今年度も説明会を行う。

委員

町児童生徒が参加する取り組み、町としてやっている催しなどがあれば、名称等教えてほしい。

藤村社会教育係長

成果指標①が、小・中・高対象にした行事を積み上げたもの。揖斐川町との交流。寺子屋芽室（ゲートボール教室、ドローン体験）。わんぱくキャンプ。揖斐川の小学生のおもてなし。トレーシーとの国際交流。西部とかち3町で、くまげらキャンプ。

委員

子どもたちを集めて、写生会など手軽にできるものをやられたことはあるのか。もしやっていなければ、取り入れてもいいのではないか。（要望）

藤村社会教育係長

写生会はまちでやっていない。

委員

図書館と学校の図書室との差別化について。

藤澤図書館長

図書館と学校の図書室で、分けるためにこうしようというのではないが、電子版の図書をどういうのを入れたいかなど学校の先生に聞いたり、要望を聞いたりして、連携を取ってやっている。

委員

子ども会活動の減少。複数の町内会をまたいで広域的に子ども会をすることはできるのか。

江崎生涯学習課長

町内会の活動にも付随している。いくつかの子ども会を繋げるというのも一つの案。町内会関係で魅力創造課とも話し合いながら進めていきたい。

《評価》

委員

妥当 子供から高齢者までを大切に見守り、充実した生活を送ることができる取り組みが見られる。

委員

妥当 質問の回答理由が納得できた

委員

妥当 社会教育委員に対し、コミュニティスクールの取り組みなどの周知があつていいのではないか。介護施設にギャラリーがついて、4か月分芽室の人に来てもらっている。社会教育活動は、コロナ明けから他より早く動けている部分もある。

《今後の取り組みに対する意見》

委員

町の人との触れ合いの場を設けることが大事。町のすばらしさを子どもたちに小さいころから教えるのが将来的にいい。課外活動（写生会等）を子どもに参加してもらう。芽室の良さを発見できるのではないか。

委員

- ・策定時になかったことが入ってくる（ジモト大学等）ため、成果指標の数値を%にしたらどうか。
- ・民間主体で実施していること（クリーンアクションなど）を、町として参加の促進を図つてくれると嬉しい。参加者が増えることが、生涯学習の機会につながる。また、成果指標にもつながるのではないか。
- ・ブルーハンカチプロジェクトも口コミで広まった感じのため、町で周知をしてもらえると、興味がある人の輪が広がるのではないか。
- ・ゲストハウスに大学生がきて、まちづくりの研究をされる。もっとまちが応援するのはどうか。

委員

事業のバランスを大事に。やっていること自体は、大切なこと。

江崎生涯学習課長

社会教育委員への周知。やっている事業をお知らせする努力をしていく。

《補足》

委員

電子図書の絵本について、読み聞かせがAIの声。温かみのある声で読み聞かせしたい。AIで読み聞かせした書籍があるのか。

生涯学習課

便利な世の中との組み合せをどうしていくか。どんなものがあるか確認しておく。

②地域文化の振興

《質問》

委員

芸術鑑賞を楽しみにしている。演目について、ローテーションが決まっているのか。

江崎生涯学習課長

マンネリを避けるため公募した組織で、項目を挙げて選んでいく形。演目自体を多くの人に楽しんでもらえるようなものを選んでほしいと伝えている。

《評価》

委員

妥当 芸術鑑賞、文化展の大変さわかる。今の内容でいい。他自治体では、体験型の文化展の受けがいい（生け花など）。そういうこともやってもらえたなら。（要望）

委員

妥当 成果指標の推進。

委員

妥当 文化芸術を活かした地域づくりは難しいが、実行委員会の皆様の頑張りで前進と評価。

《今後の取り組みに対する意見》

委員

文化協会の活動について具体的に。

江崎生涯学習課長

役員のなり手がいなく、世代交代できない。新しい組織を作るにも担ってくれる人がいない。少人数で動いている人もいるがそういう人は文化協会には入らない。入らなくとも活動できる現実。芽室町だけでなく他の市町村もそういう傾向。できることをしていきたい。

委員

町民活動支援センターの親切な対応に感謝している。今後も何かあったら頼りたい。体験型の文化展はとてもいいと思う。

江崎生涯学習課長

マンネリ化が進んでいるため、協会に意見を伝える。

委員

読書感想文で POP の部門ができた。図書館祭りで、POP 作成コーナーを作ろうと思う。

江崎生涯学習課長

指定管理者、ノウハウがしっかりしていて講座をやっている。社会教育という分野で専門家にやってもらう時代。今年度いっぱい更新で財団になる予定。落語なども財団で考えている。要望等聞いてやっていきたい。

委員

文化芸術は心を豊かに成長させるうえで大切。幼少期の影響は大きいため、小さいころから文化芸術に触れてもらうことが大切。学校単位で、楽器の演奏や人形劇など触れ合える機会を。

江崎生涯学習課長

生涯学習課だけでなく、子育て支援課などとも協力して取り組みを進めていきたい。多様性をどう取り入れるかも課題。ご意見として考えていきたい。

③スポーツしやすい環境づくり

『質問』

委員

総合体育館の改修期間の代替え場所はあるのか。

江崎生涯学習課長

学校の施設開放をしている。団体には去年から声掛けしている。

委員

河川敷の野球場について、台風で浸水したその後は。

江崎生涯学習課長

今の場所の整備予定はない。また同じ災害がないわけではないためである。球場が一つだと混むため、西中にもグラウンドがあり、あまり使っていない状況であることから、大人が使うには整備が必要だが、代替え施設として考えていきたい。

《評価について》

委員

妥当 各施設が充実してきている。町民の健康に対する意識の高まり。

委員

妥当 成果指標の結果。スポーツ団体との連携が評価できる。今後も続けてほしい。

委員

妥当 成果指標。「一流を見て・聴いて・学ぶ」事業は、地方にいるとできないことであり、いい機会作っている。評価できる。

《今後の取り組みに対する意見》

委員

スポーツを通しての健康づくりは大事。「一流を見て・聴いて・学ぶ」事業は必要である。継続をお願いしたい。

委員

部活動の地域移行に関する取り組みについて、「我が子が部活動をしていく中で、時間帯が限られていて、試合前にアップする時間がなく、危険である」といった声を聞いた。子どもたちの安全面での懸念がある。子どもたちの安全を最優先にしてほしい。

委員

部活動の地域移行について、朝4時に中学生が野球のユニフォームをきて学校に来ているのを見た。そんなはやくからやっているのか。時間が決まっているという部分が極端なのではないか。朝が早すぎてかわいそうである。

温水プールの利活用について、介護予防にも効果がある取り組みである。プールでの体操などは、介護予防に効果あり。

江崎生涯学習課長

「一流を見て・聴いて・学ぶ」事業は、子どもたちが目を輝かせてやっている。

部活動の地域移行については、時間の目安があり、先生方も時間を守っている。守ることが安全性に影響を及ぼすのであれば、そういう意見があったということを学校に伝えたい。

温水プールの利活用について、プールはどんどん使ってほしい。水泳少年団の解散があり、運営する上で、お母さんたちが大変でやっていられないとなつたことからである。トレーニングセンターはたくさん人が来ている。体育館にキッズルーム作った。子育て支援の観点で、3月だけで5000人きた。子どもたちの健やかな成長を促していきたい。

令和6年7月31日総合計画審議会専門部会B-3

参加者：遠藤委員 木原委員 櫻田委員 堀越委員 山田委員

欠席者：珠玖委員

ファシリテーター：岩野さん 板書：村上

①暮らしの安全・安心の確保

《質問》

委員

防犯協会の運営費は？

橋本環境土木課長

町から交付金として支払っている。

委員

施策の達成状況の想定される理由の欄。成果指標①②④の微減は特段理由なしとのことだが、住民意識調査で理由は分からぬという意味か。

橋本環境土木課長

おっしゃる通り。理由は分からぬという意図。

委員

施策の達成事業の③事務事業全体の振り返りで、「交通安全推進委員会と連携し、交通安全啓発の実施（略）…」とあるが、お金はかかる？

久保田生活環境係長

交通安全運動期間にあわせて、通常のみどりのおじさん・みどりのおばさんとは別に出役して児童生徒の見守りをしている。出役時間に応じて費用弁償をしている。

委員

小学校の前などに立っている人とは別という意味か？

久保田生活環境係長

普段いる人とは別に交通安全推進委員もやっている。

橋本環境土木課長

みどりのおじさん・おばさんは専任交通指導員といい、町の会計年度任用職員で、町内12

か所に配置して、登下校時の安全を見守っている。

委員

道路交通標識（時速標識）が傷んだり色あせている場合は、どこが管轄になるか？

橋本環境土木課長

交通標識は町に連絡がきた場合は、町から帯広警察署の公安委員会に連絡している。

委員

では本来は役場ではなく交番などに言うべきか？

橋本環境土木課長

町から警察に言うこともできるので、言っていただいて大丈夫である。

委員

町内を歩いていて、時速標識や消火栓の看板が白くなっているものを見かけ気になった。

⇒グループワーク終了後、環境土木課が場所の確認済み。

委員

事前質問回答の②自動車防犯診断と③地域防犯診断について具体的に教えてほしい。

久保田生活環境係長

②自転車防犯診断は、年2回、駅前駐車場や跨線橋を越えたところの駐輪場で、自転車の状況を確認し、不備があれば分かるようにして啓発をしている。

③地域防犯診断は、町内会に協力いただいて、役員と地域を回り施錠しているかや、玄関の明かりがつくかなどの確認をして啓発活動をしている。令和5年度は錦町町内会にご協力いただき、8月と11月の2回実施した。

委員

町内会を決めてやっているのか。

橋本

町から町内会に声をかけて実施している。

«評価»

委員

C 妥当。全体的に色々な形で努力されているのが見えるため。

委員

C 妥当。取組自体はしっかりやられている。町民に知られていないこともあるかと思うので、周知して実感がわく仕組みがあればいいと思う。

委員

C 妥当。成果指標ほぼ達成されている。

委員

C 妥当。安全安心は確保され、維持されている。

委員

C 妥当。C なのか B なのかで悩んだ。成果指標では高い数値を出しており、気持ち的には B 評価でもいい。

«今後の取り組みに対する意見»

委員

高齢者の交通事故が増えている。免許返納をどう周知して進めていくのか。買い物弱者にならないようにどのような施策があるのか。自分自身も、買物をどうしようと考えると返納できない。町としてどのように取り組んでいるか。

久保田生活環境係長

町では、免許返納の臨時窓口を年2回実施しているほか、芽室自動車学校で高齢者向けの自動車教室を実施し、老人クラブに周知し 20 名程度参加があった。免許返納後については、じゃがバスの1年無料乗車券などがあるので、ご相談いただけたら。

委員

防犯対策について。住民意識調査はアンバランスだと思う。回答数が下がり、回答者1人あたりの影響度が大きくなっている。4つの指標の中で成果指標①「芽室町は防犯対策が十分であると思う町民の割合」が1番低い。なぜこんなに低いのか。自由記述読むと、良いという人は防災と防犯が混同している。だめという人は、町が防犯について何をやっているかが分からず、できていない、分からないと答える。今の認知度のまま2年後に目標値まで上がるのか。町民が町の取組をすればおのずと数値は上がってくるのではないか。町でやってい

る取り組みの周知を考えたらいいと思う。(意見。回答不要。)

②地域内経済循環の推進と商工業の振興

《質問》

委員

リフォーム等奨励事業は、利用は多かったのか？

仲野商工労政課長

一昨年から商工会商品券からMポイントに変更したが、影響は特になくスムーズに移行した。利用数は年によって変動はあるが、工事発注額ではおおむね1億円前後、件数では100件弱で推移している。町民には一定程度ご利用いただいていると思っている。また、町内事業者への利用促進にもつながっていると思う。

委員

対象は町内業者のみか。

仲野商工労政課長

おっしゃる通り。10万以上が該当し、給湯器やボイラーの交換などであれば少額のものもある。解体が多い年は総額が多くなる。町内利用は進んでいると考える。

委員

手続きは？

仲野商工労政課長

役場に申込いただくのが基本だが、事業者さんが上手く使って、町のポイント制度をキャッチフレーズにしながら営業をするケースもあり、現実的には施工主にかわって事業者からの申し込みが多い。

委員

広告などを見て町外の家電量販店などに行ってしまうと対象にならないということか。

仲野商工労政課長

町内事業者のみ。町内事業者にとっても、本制度を上手く使って、自社を使ってもらえるよう営業してもらえたなら。

«評価»

委員

妥当 C。成果指標①②は策定時より伸びている。

委員

妥当 C。指標結果でている。③が各地方の課題だと思う。地域通貨促進もあるが、買物の仕方も変わり、芽室町に住みながら町外で買い物ができる、高齢者も買い物に行かなくても済むようになってきている。その内で地域内経済循環を上げていくのは、町内に人を呼び込んでいくしかない。

委員

妥当 C。実績値が

委員

妥当 C。プレミアム付商品券、M カードを活用した事業、新工業団地など、評価できる取り組みを色々されている。

堀越

妥当ではない、B。住民意識調査は変動があり、重視していない。成果指標①②は変動のある住民意識調査ではなく具体的に出ている数字で、目標には達しているが伸びてきている。B 評価でもいいのではないか。

«今後の取り組みに対する意見»

委員

ネットでも買える世の中になり、町内で買物するというのは難しいと思うが、町内で買物がしたくなるように M カード取扱店が増えるように進めていただきたい。(意見、回答不要)

委員

域内でどうお金を回すか。どうやって人を呼び込んで定着させていくか。若い人が町に残る、戻ってくるために、何ができるかを考える必要がある。人を呼び込むための取組が人口を維持していくために必要。道東で芽室にしかないという店があればいいが難しいと思う。イベントだけでなく、ここにしかない何かを発信できるための後押しがあるといいと思う。

委員

人口減少、高齢化は避けられない。買い物も通販で済ませられる。商店街にとっては苦難の時代。実店舗で買物をする楽しさ、喜びを作り出していくことにつきる。先ほど M カード

に加入していない事業者の話題が出たが、クレジットカードやキャッシュレス払いは手数料がかかり、店側にとっては負担にもなる。手数料の問題もあり、踏み込めない事業者もいると思う。そういう問題に、行政がどのようなバックアップをして、加盟店を増やしていくか。

委員

確かに、自分の勤務先でもクレジットカード決済をすると手数料がかかる。M カードも同じということであれば事業者の事情も理解できる。

委員

田舎に行けばいくほど顕著になる。なかなか進まない一因になっている。

委員

西蒂広やイオンに買物に行く人が多いと思う。プレミアム付商品券やリフォーム事業などは地元のお店を知る機会・使う機会になりいい事業だと思うので継続してほしい。

委員

成果指標③「町内でのお金の循環を意識している町民の割合」の質問について。住民意識調査の質問内容は「普段、町内でのお金の循環を意識して、町内のお店を利用していますか」となっているが、意識しているかを聞きたいのに、(実際に) お店を利用しているかも聞いている。質問の仕方が悪いのではないか。意識調査低いのであれば意識付けが必要だし、意識が高いのであれば消費喚起をすればいいのではないか。

仲野商工労政課長

- ・M カードの取扱店については個人的には増えてほしいと思っている。カード会が中心に進める事業なので、町としては間接的に背中を押していけたらと考えている。令和3年度からスタートし、一時減少したが回復してきている。意識を持って進めていきたいと思っている。

- ・キャッシュレス決済手数料については、コロナ交付金を活用してキャッシュレスを推進した時期がある。実施して 1.3~1.4 倍に店が増え、一定の効果があった。手数料の負担について事業者の経営判断になる。

- ・住民意識調査の質問についてはダブルバ렐（1つの設問分の中に 2つ以上の論点が含まれている設問）により結果の要因分析がおかしなことになっているというのは指摘の通りだと思う。次の住民意識調査に向けて設問内容をかえていくか課内で検討していきたい。

委員

Mカードの件は承知した。状況を鑑みながらぜひすすめてください。

③災害に強いまちづくりの推進

《質問》

委員

決算額が策定時より大きく増えているが、何か力を入れて取り組んだことはあるか。

中島総務課長補佐

防災ラジオのシステムの関係で5年に1度のバッテリー修繕があったことや、WEBハザードマップの構築などで金額が大きくなった。

委員

町でもっている防災関連の備蓄品や災害時に使うもので、移動式トイレなど、新たに取り入れたいものはあるか。

中島総務課長補佐

災害時のトイレは、現在は簡易トイレとマンホールトイレを用意しているがマンホールトイレは避難所から遠いという問題もある。簡易トイレは今あるトイレにかぶせて使うので効果的だが、数が不足しており増やしていくと考えている。移動式トイレもいいなと思うが、タンクに溜めるので、大きいところになるとすぐに溜まってしまうことや、日頃使えないのに高額なのが難点。そのため、今は簡易トイレを十分に備蓄していく方がいいのではないかと考えている。

《評価》

委員

妥当 C。成果指標①が減っているがアンケートの取り方の部分もあると思うし、成果指標③の耐震化は進んでいる。考えられることを少しづつ積み重ねていると読み取れ、C。

委員

妥当 C。（芽室で勤務しているが）芽室に住んでいないので町の取組は実感がわからないが、自分の家の避難所はいたるところで周知されているのは見る。防災関係では情報の伝達方法が重要だと思うので、成果指標②で約8割程度登録されているのは評価できる。

委員

妥当 C。成果③の策定時 93.4%はすごく高いと思う。備蓄も着実に行っており、芽室町と

して施策は進んでいると思う。

委員

妥当 C。防災ラジオは川の近くの世帯に配っているのか？

中島総務課長補佐

当初は浸水区域にすべて配って整備した。その後、全戸配布をめざして、転入者への周知、町内会周知などを行っており、浸水区域は9割程度。ラインは年1000件くらい増えている状況。

委員

情報の伝達が大事だと思う。成果指標②が大きく伸びているということでC

委員

B評価。目標数値に近いところまでできているのでB評価。

『今後に取り組みに対する意見』

委員

ハザードマップやっていると思うが、芽室町の弱点を知ることが災害から守ることにつながると思う。平和だと避難所も忘れてしまうので、避難所は自分のところ一か所だけでなく、他の避難所も知ることも必要だと思う。ハザードマップで危ないということが認知できるようにしてほしい。(意見・回答不要)

中島総務課長補佐

浸水の時はこっち（の避難所）など混乱する人もいる。避難所を開設する場合は、開設した避難所を周知し、安全に避難していただけるよう対応していこうと思う。忘れられることがあるので、訓練を行っているが、訓練に出ている人は認識していると思うが、町内会の加入率下がっているので、他の手段も使いながら周知することも考えていきたい。芽室町は水害はあったがその他の災害は少なく、意識の低さもあるので、繰り返していきたい。

委員

家で被災するとは限らないので、職場や教育現場でも防災に関する働きかけをしてほしい。(意見・回答不要)

中島総務課長補佐

学校では防災に関する講演などを行っている。町外から芽室町に勤務している人もいるの

で、職場での訓練も必要だと思う。

委員

職場での訓練はあるが、備蓄や避難所の確認、災害地の連絡先の確認などで、形骸化している。自治体が絡むなど、きっかけがあればよいと思う。危険な区域について優先してやってもらえると効果的ではないか。

委員

コロナ禍以降、町内会活動は停滞しているし、町内会に入らない人も多い。近くにアパートがあっても誰が住んでいるか分からぬ。町内会に頼ってばかりではだめ。災害時にどうやって集団で避難させるか、重たい課題である。行政が主導権をにぎって、助け合い組織を創っていただけたらいいかなと思う。（意見、回答不要）

中島総務課長補佐

町内会活動の停滞や活動する人の高齢化や、当町は災害が少なくて意識が低い部分もある。成果指標④の過程での備蓄が進んでいない現状もある。解決策は見いだせていないが、悩みながらも取り組んできたい。いいアイデアがあれば教えていただきたい。

委員

町外に住んでいるが、芽室は水害はあるが安全な町だと思う。町民が（災害について）町の弱点を知るのが大事。町外者にはわからないので、そういうのがあるとありがたいと思う。

委員

住民意識調査に回答する人は意識が高い人だと思っていたので、その意識が高い人たちでも成果指標が100%ではないということは、回答していない人を含めると実態はもっと低いのかもしれない。成果指標①では避難所を知らない町民が約16%も、成果指標②では情報伝達手段を1つも登録していない人が22%もいる。なぜ知らないか、要因や実態を調べてみたらどうか。（意見。）

中島総務課長補佐

防災ラジオについては、浸水区域住民でも、LINEに入っているからいらないという人はいる。ラインとメールは（登録しない）実態は分からぬ。LINEやメールは発信が多いとブロックや解除して辞める人や、思わぬタイミングでメールが鳴ったのでと辞めていく人もいる。ラジオはライトが点灯するというメリットをセールスしているが、かたくなに要らないという人もいる。

委員

ブラックアウトの時に勝手に情報を流す人もいた。影響力のある人がいうと信じてしまう。
だからこういうもの（公式の発信ツール）が必要だと思う。

中島総務課長補佐

災害時は平常心ではいられないでの、真実ではない情報が広まってということは起きうる。
防災ラジオは、情報が流れる時は緊急と思ってほしいため、災害時の緊急の発信ということで受け取っていただき、SNS は昨今の状態をみながら落ち着いて対応していただきたい。

令和6年7月31日総合計画審議会専門部会B-4

参加者：桜井委員 佐藤（涉）委員 高橋（広）委員 高橋（圭）委員

欠席者：須崎委員

ファシリテーター：平岡さん 板書：前田

①国際・地域間交流の推進

《質問》

委員

トレーシー市交流協会の人が専門部会のメンバーに入らなくてもよいのか。

事務局

持ち帰って検討します。

西田魅力創造課長

トレーシー市交流協会とは、過去にトレーシー市に小学生派遣した親御さんなどが在籍しております、29名ほどいる

《評価》

委員

妥当 コロナ禍の中推進していると思う。

委員

妥当 ふるさと交流センターではトレーシー交流も売りの1つとなっている。小学生を派遣したらトレーシー側の受入も必要なので大変だが、頑張って受け入れる。

委員

妥当 特になし。

委員

妥当 新たなPRと書かれているが、どういったことやられていたのか。

西田魅力創造課長

過去は小学生交流と物販交流だけだったが、その先に繋がること（民間交流や事業者交流）を見据えて実施している。例えば揖斐川町へ派遣された子供達は11月の収穫感謝祭で揖斐川町の物販手伝いを行っている。

委員

広尾町との交流があるなら、収穫感謝祭で売りに来てほしい。

西田魅力創造課長

広尾町側にルールがあって難しいのが本音。何で愛菜屋の物販で厚岸町があって広尾町が無いのかという意見は分かる。

委員

昔声かけてやった経緯はあるみたい。

西田魅力創造課長

今後の意見として参考とする。

《今後の取り組みに対する意見》

委員

広尾町に働きかけてほしい。

委員

マネジメントシートの中に台湾と友好都市を検討とあるが、締結こだわらなくても生産者が現地行けばたくさん刺激になると思うが如何か。

委員

同意見である。トレーシー市以外では台湾もいいのではないかと思っていた。現在道内で台湾と友好連携協定を締結している市町村が13か所あって、うち9か所は2年以内に締結している。市町村レベルで締結は可能。親日であり、実際東日本大震災にお金と人材派遣いただいた恩もある。また、温暖な台湾は雪降らないので、嵐山絡めて観光推進もどうだろうか。

委員

台東・墨田区はうまく実施できていると感じる。前述のとおり広尾ともう少しうまく事業を実施してほしい。うみやま大戦（スポーツ交流）とかどうか。物販だけではなく人材交流もいいのでは。町民としては広尾と交流していることがあまりピンと来ていない。PRできていないのでは。

西田魅力創造課長 台湾はセンシティブな部分もあるので、慎重に協議していきたい。また芽室町側のニーズと台湾のニーズが合致しているか確認する。友好連携協定締結が無くて

も、独自のコネクションがあるので今後も継続協議していきたいと思う。

②地域資源を活用した観光の振興

《質問》

委員

帯広市と隣町の有利性を生かして、帯広と連携するものはないのか。

西田魅力創造課長

現在日高山脈との連携で観光協議会を行っている。また広域観光連携で補助金もあるので進めていきたい。最近の旅行ニーズが団体から個人になっている。海外の方も、ニセコに少し飽きており、富良野などに流れていると聞くが、複数日はいないので、そのうち1日は十勝に来てもらえるよう目指していきたい。

委員

芽室町に宿泊宿が少ない。嵐山あれば…とは思う。がんばってほしい。事業費 268,664 千円のうちなにが多いのか。

西田魅力創造課長

ほとんどふるさと納税。収入 4.5 億の半分は経費となるため。

藤村魅力発信係主査

以前十勝川温泉から打診があって、海外客が多くなってきたため、プランの一部として嵐山を利用できないか、周遊できないとあった。今後も連絡を取って可能性を広げていきたい。

西田魅力創造課長

日高山脈は険しいので山登りなどの観光はむずかしい。景観を見ながらにかできるツアー検討中。（バイク周遊、フォトスポット、展望台など）あと、今後はガイドが必要なので育成している。それにより付加価値を狙っている。

委員

もともと登山口もあるし（伏美岳）、登山向けの整備も必要なのでは。新設でなくていよいので再整備でよい。また、嵐山に宿泊施設が必要か検討すべき。宿泊施設を再開してもまた同じ繰り返しになりそう。計画はしっかりたててほしい。

藤村魅力発信係主査

今年策定する。骨格内ではニーズに沿って検討するとなっている。ネットは大人数での宿泊。

現代のニーズではないものの、今後どうなるか分からない。宿泊ありきではない。

『評価』

委員

妥当 期待を込めて。

委員

妥当 体を大事に。

委員

妥当 今後の嵐山について話したときに郷土愛を感じたのでうまく進むと信じて。

委員

妥当 本当は上げてあげたいけどしようがない。

『今後の取り組みに対する意見』

委員

伏美岳整備。

委員

ガイドの資格を取得しているが、芽室町で目玉になるものがない。ガイドの資格者が額で並んでいたのでそれもいいのではないか。また、町民はインバウンドを求めているのか気になる。町民は変な人には来てほしくないという思いもあるかと。町民が求めているか確認する必要がある。

委員 頂上からの絶景は推したい。頂上に料理を運んで景色を見ながら食事してもらうなど色々試してみたらどうか。(ドローンで運ぶなど)コストかけずにチャレンジしてほしい。また、社会貢献団体に嵐山の現状を説明して、アイディア募集したらどうか。

委員

嵐山について頑張ってほしい。

西田魅力創造課長

上水道がないので大変。道路狭いもネック。

藤村魅力発信係主査

展望台までの林道が大変。なので、夏のリフトを検討の余地ある。

③シティプロモーションの推進

『質問』

なし。

『評価』

委員

妥当 ビジョンマップできてから進んでいるか気になる。もっと町民に理解してもらえる仕組みを。

委員

妥当 住民は郷土愛あるし、魅力的な街だと思う。町の魅力はずっと住んでいる人は気づいていないのではないかと感じる。

委員

妥当 上美生で町外の人は定着しているのか。

委員

そのまま親子で住んでいる方もいる。

西田魅力創造課長

担当部署が違うが、山村留学も移住定住のポイントと感じている。移住フェアでは山村留学事務局の方も連れて行っているが、多く興味を持たれる。

委員

妥当 取組の理解が不足しているが。指標が町民側の指標ばかりで、町外側の指標がない。そのような評価があってもいいのでは。

西田魅力創造課長

町外の指標がないのはそう思う。社会人口増の指標はあってもいい。

『今後の取り組みに対する意見』

委員

町外に向けた発信はなにがあるのか？

西田魅力創造課長

食の魅力発信事業（都内シェフのオリジナルレシピ作成→ふるさと納税）や、PR番組作成。台東区墨田区連携（物販・住民交流）。私たちとしては、発信活動をしていること 자체を伝えきれていないのが課題と感じているので、今後は進めていきたい。

委員

これから世代に意見を伺うという意味で、芽室高校生の意見聞くのもいいのではないか。

西田魅力創造課長

現在白樺学園が町の取組に協力してもらっている、街づくりについて計画的に授業している。芽室高校は道立なので難しい面がある。今後は若い人の町づくりを考えている。メムクリ等の高校生発信イベントを実施することで高校生達が「私たちでもまちづくりできる」と気づけるし、視野が拡がる。今後は小中から町づくりの参加を実施していきたい。

委員

定員割れの地域の子たちは地域留学が行われているが、芽室はない。個人的には山村留学の子は芽室高校までエスカレーターで進学できればいいなと思う。

委員

ビジョンマップの見解を。

西田魅力創造課長

具現化や郷土愛醸成を行っているなか、今ある資源を活用してにぎやかなまちを作りたいと思っている。地域おこし協力隊を新たに雇用し、空き家をどうするかを進めていくし、総合的に進めていくように動いている。